

8課

信仰を持つ

5月23日

安息日午後

5月16日

暗証聖句

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。(ヘブライ 11:1、新共同訳)
さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。(ヘブル 11:1、口語訳)

今週の聖句

マルコ 8:11、12、マタイ 15:21~28、ルカ 7:1~10、エフェソ(エペソ)2:8、ヘブライ(ヘブル)11章、黙示録 14:12

今週のテーマ

かつてある人が、「信仰とは、Wi-Fiのようなものです。目には見えませんが、必要なものにつなぐ力を持っています」と言いました。疑いなく、信仰がなければ、神との関係はありえません。

あなたの信仰は、今、どんな状態ですか。これまで、神への信仰が揺らいだことはありますか。もしかしたら、神との関係をどう進めていけばよいのかわからなくなるほど、自分が試されるような経験をしたことがあるかもしれません。それとも、あなたの信仰は、緑の茎から小さなつぼみへと成長し、やがて色鮮やかな花を咲かせ、部屋を忘れられない香りで満たすバラのようなものでしょうか。まさに、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、目に見えない事実を確認することです」〔口語訳「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」〕(ヘブ 11:1)。それは、私たち自身の力で生み出せるものではありません。なぜなら、「神が各自に、ある程度の信仰を与えてくださっている」(ロマ 12:3、英訳聖書〔NKJV〕の直訳 “God has dealt to each one a measure of faith” 「神は各自に信仰の量り〔尺度〕をお与えになった」)からです。信仰は神からの賜物です(エフェ[エペ]2:8、9)。ですから、私たちが神を信じることができるのは、神がすでに私たちの内に、また私たちのために、働いてくださっているからなのです。

今週は、疑いや不信にどう対処すべきか、イエスが教えられた強い信仰とはどのようなものか、「イエスの信仰」(【参考】“the faith of Jesus”、黙 14:12 英訳聖書)を持つとはどういうことかなど、信仰に関する事柄について研究します。

53

ヘブ 11:1 (新共同訳)

11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

ロマ 12:3 (新共同訳)

12:3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

【参考】Rom. 12:3 (NKJV)

12:3 For I say, through the grace given to me, to everyone who is among you, not to think of himself more highly than he ought to think, but to think soberly, as God has dealt to each one a measure of faith.

エフェ 2:8、9 (新共同訳)

2:8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

2:9 行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。

【参考】Rev.14:12 (NKJV)

14:12 Here is the patience of the saints; here *are* those who keep the commandments of God and the faith of Jesus.

ヘブ 11:1 (口語訳)

11:1 さて、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。

ロマ 12:3 (口語訳)

12:3 わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思うべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思うべきである。

エペ 2:8、9 (口語訳)

2:8 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

2:9 決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。

日曜日 5月17日 ただ、しるしをください！

あなたは、「葦の海(紅海)が分かれたり、地面にマナが降ったり、イエスが目の不自由な人を癒やしたりされるのを見ることができたら、私は信じるのに」と、誰かが言うのを聞いたことがあるかもしれません。あるいは、あなた自身も同じような考えを抱いたことがあるかもしれません。

一方、なぜ現代の私たちのほうが、大昔の聖書時代の人々より容易に信仰を持てるのでしょうか。イスラエルの人々は聖書全巻を持っておらず、私たちのように振り返ることのできる長い歴史もありませんでした。モーセは、神の導きと慈しみを覚えるために過去を振り返ることの大切さを強調しました(申 4:7~10、8:2、3 参照)。しかし、イスラエルの人々とは異なり、私たちは6000年にわたる聖書の歴史から学ぶことができます(ヨハ 20:30、31 参照)。

どの世代もしるしを求めており、私たちの世代も例外ではありません。しかし、しるしは私たちの周りにたくさんあります。マタイ24章を読めば、どれほど多くのことがすでに成就し、今も成就しつつあるかがわかるでしょう。

問1 イエスの時代の人々でさえ、多くのしるしを受けていたにもかかわらず、イエスが本当に神の子であるというしるしを求めました。イエスはどう返事をされたでしょうか(マコ 8:11、12 参照)。

私たちがファリサイ派の人々(パリサイ人たち)のように、イエスと議論し、イエスを試しているのでしょうか。信じるために必要なものはすべてイエスからすでに与えられているのに、信仰のなさのゆえに、私たちがイエスを「心の中で深く嘆」(マコ 8:12)かせている〔口語訳「心の中で深く嘆息」させている〕でしょうか。

「しかしユダヤ人にとって必要なのは、こうしたしるしではなかった。単に外面的なしるしは、彼らの益とならなかった。彼らにとって必要なのは、知的な啓示ではなくて、霊的な革新であった」(『希望への光』 881 ページ、『各時代の希望』 第 44 章)。もしかすると、私たちにも霊的な革新——純粋に、実際に、一瞬一瞬を神と共に歩むこと——が必要なのではないのでしょうか。もしかしたら、実際にはしるしなど必要ないのかもしれませんが。なぜなら、私たちの手もとには多くの知識、特に聖書から得られる知識があるからです。

ですから、私たちの信仰のなさのせいでイエスを「深く嘆かせる(深く嘆息させる)」代わりに、主がトマスに語られた次の言葉を思い出しましょう。「見ないのに信じる人は、幸いである」〔口語訳「見ないで信ずる者は、さいわいである」〕(ヨハ 20:29)。神は盲目的な信仰を求めておられるのではありません。信じるための多くの理由は、すでに与えられています。重要なのは、疑いをもたらすものではなく、信仰を肯定するものに焦点を合わせることです。

【参考】英語テキストにある文

In just 60 seconds, how would you describe your faith in God? What does your answer tell you about your walk with God?

たった60秒で、神を信じるあなたの信仰をどのように説明しますか。その答えは、あなたの神との歩みについて何を物語っていますか。

54

申 4:7~10 (新共同訳)

4:7 いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大なる国民がどこにあるだろうか。

4:8 またわたしが今日あなたたちに授けるこのすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大なる国民がどこにいるだろうか。

4:9 ただひたすら注意してあなた自身に十分気をつけ、目で見たことを忘れず、生涯心から離すことなく、子や孫たちに

申 4:7~10 (口語訳)

4:7 われわれの神、主は、われわれが呼び求める時、つねにわれわれに近くおられる。いずれの大なる国民に、このように近くおる神があるであろうか。

4:8 また、いずれの大なる国民に、きょう、わたしがあなたがたの前に立てるこのすべての律法のような正しい定めと、おきてとがあるであろうか。

4:9 ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている

も語り伝えなさい。

4:10 あなたがホレブであなたの神、主の御前に立った日、主はわたしに言われた。「民をわたしのもとに集めなさい。わたしの言葉を彼らに聞かせ、彼らが地上に生きる限り、わたしを畏れることを学び、またそれを子らに教えることができるようにしよう。」

申 8:2、3 (新共同訳)

8:2 あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた。

8:3 主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。

ヨハ 20:30、31 (新共同訳)

20:30 このほかに、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

※マタイ 24 章はお手元の聖書をお読みください。

マコ 8:11、12 (新共同訳)

8:11 ファリサイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを求め、議論をしかけた。

8:12 イエスは、心の中で深く嘆いて言われた。「どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがるのであろう。はっきり言うておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。」

ヨハ 20:29 (新共同訳)

20:29 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

間、それらの事をあなたの心から離してはならない。またそれらのことを、あなたの子孫に知らせなければならない。

4:10 あなたがホレブにおいて、あなたの神、主の前に立った日に、主はわたしに言われた、『民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしの言葉を聞かせ、地上に生きながらえる間、彼らにわたしを恐れることを学ばせ、またその子供を教えることのできるようにさせよう』。

申 8:2、3 (口語訳)

8:2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。

8:3 それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。

ヨハ 20:30、31 (口語訳)

20:30 イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかに多く、弟子たちの前で行われた。

20:31 しかし、これらを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

マコ 8:11、12 (口語訳)

8:11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。

8:12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろうか。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない。」

ヨハ 20:29 (口語訳)

20:29 イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。」

問2 弟子たちの信仰に対するイエスの評価(マコ 4:40)と、カナンの女の信仰に対する評価(マタ 15:21~28)を比較してみてください。

イエスに従っているからといって、自動的に信仰が強いということにはなりません。実際、信じていると主張する人たちもいましたが、イエスは彼らの心の中にある本当の思いを見抜いておられました(ヨハ 2:23~25)。

問3 ルカ 7:1~10 を読んでください。この記事から、信仰について何を学ぶことができるでしょうか。

マルコ9章には、息子から悪霊を追い出してもらおうとイエスのもとに来た男の話が記されていますが、彼は、「信じます。信仰のないわたしをお助けください」【口語訳「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」】(マコ 9:24)と言うのがやっとの信仰しか持っていませんでした。

ルカ7章やマルコ9章におけるそれぞれのやりとりの中で、イエスは人々の信仰、あるいは信仰のなさに目を留め、その信仰に応えて、あるいはその信仰を強めるために奇跡を行われました。

聖霊が私たちに、信じなさいと促しておられるのと同じように、魂の敵は私たちに、神の関与を疑わせたり、無視させたりしたいと思っています。「心に抱く不信は、人を魅する力を持っています。商かれた疑いの種は実をならせるので、すべての不信という根を掘り起こし続けなければなりません。これらの毒に満ちた木々が引き抜かれると、栄養不足になって疑いや不信に満ちた言葉や行動を見ることがなくなります。そしてその代わりに、その人の心の土壌には、信仰と愛という尊い木々が植えられ、根が張られなければなりません」(『信仰と行い』15ページ)。

神や神の品性、あるいは神の言葉に疑いを抱くとき、私たちはどうすればよいのでしょうか。神は人間の理性を無視したり、顧みなかったりなさいません。なぜなら、神は私たちをご自分にかたどって創造し、アブラハム、モーセ、ヨブと対話されたように、神と対話するように私たちに招いておられるからです。たとえ私たちが、ある時点で完全に理解できないことを受け入れなければならないとしても、神は、ご自分の広大で無限の理性の枠組みの中で働くことを身につけるよう、私たちに招いておられます。

【参考】英語テキストにある文

Think of all the logical reasons you have for faith. At the same time, at what point does logic stop and faith, solid and reasonable faith, need to be exerted?

信仰を持つことについて、あなたが抱いているあらゆる論理的な理由を考えてみてください。同時に、論理はどの時点で行き詰まり、確固たる理にかなった信仰を貫く必要が生じるのでしょうか。

55

マコ 4:40 (新共同訳)

4:40 イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」

マタ 15:21~28 (新共同訳)

15:21 イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。

15:22 すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。

15:23 しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」

15:24 イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにはしか遣わされていない」とお答えになった。

15:25 しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。

15:26 イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけません」とお答えになると、

15:27 女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」

15:28 そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。

ヨハ 2:23~25 (新共同訳)

2:23 イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。

2:24 しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、

マコ 4:40 (口語訳)

4:40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。

マタ 15:21~28 (口語訳)

15:21 さて、イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方へ行かれた。

15:22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。

15:23 しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきますから」。

15:24 するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。

15:25 しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。

15:26 イエスは答えて言われた、「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。

15:27 すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。

15:28 そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。

ヨハ 2:23~25 (口語訳)

2:23 過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。

2:24 しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、

2:25 人間についてだれからも証ししてもらふ必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

ルカ 7:1~10 (新共同訳)

7:1 イエスは、民衆にこれらの言葉をすべて話し終えてから、カファルナウムに入られた。

7:2 ところで、ある百人隊長に重んじられている部下が、病気で死にかかっていた。

7:3 イエスのことを聞いた百人隊長は、ユダヤ人の長老たちを使いによつて、部下を助けに来てくださるように頼んだ。

7:4 長老たちはイエスのもとに来て、熱心に願った。「あの方は、そうしていただくのにふさわしい人です。

7:5 わたしたちユダヤ人を愛して、自ら会堂を建ててくれたのです。」

7:6 そこで、イエスは一緒に出かけられた。ところが、その家からほど遠からぬ所まで来たとき、百人隊長は友達を使いによつて言させた。「主よ、御足労には及びません。わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。

7:7 ですから、わたしの方からお伺いするのさえふさわしくないと思いました。ひと言おっしゃってください。そして、わたしの僕をいやしてください。

7:8 わたしも権威の下に置かれている者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりになります。」

7:9 イエスはこれを聞いて感心し、従っていた群衆の方を振り向いて言われた。「言うておろが、イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。」

7:10 使いにいった人たちが家に帰ってみると、その部下は元気になっていた。

マコ 9:24 (新共同訳)

9:24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信

2:25 また人についてあかしする者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。

ルカ 7:1~10 (口語訳)

7:1 イエスはこれらの言葉をことごとく人々に聞かせてしまったのち、カペナウムに帰ってこられた。

7:2 ところが、ある百卒長の頼みにしていた僕が、病気になって死にかかっていた。

7:3 この百卒長はイエスのことを聞いて、ユダヤ人の長老たちをイエスのところにつかわし、自分の僕を助けにきてくださるようにと、お願いした。

7:4 彼らはイエスのところにきて、熱心に願って言った、「あの人はそうしていただくねうちがございます。

7:5 わたしたちの国民を愛し、わたしたちのために会堂を建ててくれたのです」。

7:6 そこで、イエスは彼らと連れだつてお出かけになった。ところが、その家からほど遠くないあたりまでこられたとき、百卒長は友だちを送つてイエスに言させた、「主よ、どうぞ、ご足労くださいませのように。わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。

7:7 それですから、自分でお迎えにあがるねうちさえないと思つていたのです。ただ、お言葉を下さい。そして、わたしの僕をなおしてください。

7:8 わたしも権威の下に服している者ですが、わたしの下にも兵卒がいて、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。

7:9 イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついできた群衆の方に振り向いて言われた、「あなたがたに言うておろが、これほどの信仰は、イスラエルの中でも見たことがない」。

7:10 使にきた者たちが家に帰ってみると、僕は元気になっていた。

マコ 9:24 (口語訳)

9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、

じます。信仰のないわたしをお助けください。」

「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。

※ルカ7章とマルコ9章全体はお手元の聖書をお読みください。

火曜日

5月19日

信仰は感情ではない

イエスは、もしあなたがからし種ほどの小さな信仰を持っていれば、山を動かすことができると言われました(マタ17:20)。からし種を見たことがあれば、それがどんなに小さいかをご存じでしょう。しかし、それほど小さな信仰であっても、非常に大きな変化をもたらすことができるというのです。つまり、信仰はとても重要であるとともに、超人的なことを行えるほどの力と強さを持っているに違いありません。ですが、からし種が大きな木に成長するように(同13:31, 32)、私たちの信仰も成長すべきであり、変化せずにそのままであってはなりません。

実際、神との関係を持つためには、まずある程度の信仰が必要です(ロマ12:3 参照)。

問4 エフェソ(エペソ)2:8は、救われるうえで信仰が果たす役割について、何と教えていますか。なぜ人は、「神が信仰を与えてくださらなかったのに、私には信仰がありません」と言い訳することができないのでしょうか。

私たちはまず、信仰とは、物質的なものではなく、聖霊の促しに対する人間の応答であることを理解しなければなりません。神は恵み深い創始者であり(エレ31:3)、私たちが神のなされることを受け入れるなら、聖霊によって私たちをご自分のもとに引き寄せてくださいます。私たちは恵みによって、信仰を通して救われます。信仰とは、イエスの死を通して与えられた神の恵みへの応答です。私たちは、神の恵みの結果として神を信じるから救われるのです。これが、神との関係を持つことの核心です。

次に、信仰は感情ではないことを覚えておく必要があります。「多くの人々は、彼らの特権であり、義務である信仰を働かせることをせず、信仰だけがもたらしうる感情を待っていることがよくある。感情は信仰ではない。……信仰は、われわれが働かせるものであるが、喜ばしい感情と祝福は、神がお与えになるものである」(『初代文集』新装版 85ページ)。

神を身近に感じられない、あるいは自分がクリスチャンとしてあるべき姿ではないから、自分には信仰がないと感じる人もいるかもしれません。しかし、信仰とは順調な時だけでなく、闇や嵐の中や、自分の人生に起きていることを完全に理解できないときでさえ、神を信じ、信頼することです。

私たちの宗教体験や神との関係を、感情が支配するべきではありません。神から遠く離れていると思うときこそ、自分の信仰を働かせ、(マコ9:24の父親のように)神に呼びかける必要があります。

【参考】英語テキストにある文

Look up the following Bible verses and claim them as an act of faith to strengthen your relationship with God today: Heb. 12:1, 2; 2 Chron. 15:7; Rom. 3:23-26; Luke 7:50. Speak them out loud as part of your prayer to God.

以下の聖句を調べて、信仰の行為としてそれらを受け入れ、今日から神との関係を深めましょう(ヘブ12:1、2、代下15:7、ロマ3:23~26、ルカ7:50)。神様への祈りの一部として、それらを声に出して読み上げてください。

56

マタ 17:20 (新共同訳)

17:20 イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」

マタ 13:31、32 (新共同訳)

13:31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、
31:32 どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

ロマ 12:3 (新共同訳)

12:3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

エフェ 2:8 (新共同訳)

2:8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

エレ 31:3 (新共同訳)

31:3 遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し/変わることなく慈しみを注ぐ。

マコ 9:24 (新共同訳)

9:24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けくだ

マタ 17:20 (口語訳)

17:20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。」

マタ 13:31、32 (口語訳)

13:31 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、
31:32 それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる」。

ロマ 12:3 (口語訳)

12:3 わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思うべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思うべきである。

エペ 2:8 (口語訳)

2:8 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

エレ 31:3 (口語訳)

31:3 主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた。

マコ 9:24 (口語訳)

9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助け

さい。」

ヘブ 12:1、2 (新共同訳)

12:1 こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、

12:2 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

代下 15:7 (新共同訳)

15:7 しかし、あなたたちは勇気を出さない。落胆してはならない。あなたたちの行いには、必ず報いがある。」

ロマ 3:23~26 (新共同訳)

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

3:25 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

3:26 このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

ルカ 7:50 (新共同訳)

7:50 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

ください」。

ヘブ 12:1、2 (口語訳)

12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわなないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

代下 15:7 (口語訳)

15:7 しかしあなたがたは勇気を出さない。手を弱くしてはならない。あなたがたのわざには報いがあるからです」。

ロマ 3:23~26 (口語訳)

3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

3:25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

3:26 それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。

ルカ 7:50 (口語訳)

7:50 しかし、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

水曜日 5月20日 信仰の模範

問5 きょうは少し時間を取って、偉大な信仰の章として知られるヘブライ(ハブル)11章を研究します。まず、途中で止まることなく、声に出して読んでください。それからもう一度読み、次の質問に対するあなたの考えを書いてください。

- 1節を読み直してください。まだ目には見えないけれど、あなたがきょう、望んでいるものは何ですか(差し迫った必要や永遠の夢など)。
- あなた自身の証しや回心において、信仰はどんな役割を果たしていますか。
- 神と創造に関する3節を読み直してください。なぜ、多くの点で、創造主なる神の存在は、信仰によって最も受け入れやすいことなのでしょう。
- 6節を読み、そのメッセージをあなた自身の言葉で書いてください。
- 7~40節は、聖書の多くの人物の生涯を解き明かしています。なぜ信仰は、彼らと神との関係の強さを決定づける中心的要素なのでしょう。

神を知り、神との生きた強い関係を持つには、信仰が必要です。どうすれば、自分の信仰を強めたり、信仰が揺らいでいる人を励ましたりすることができるのでしょうか。以下に、いくつか例を挙げてみます。

(からし種のように)小さな信仰にも強い力があり、神との関係を深めるために必要なのは、信仰だけです(マタ17:20)。あなたが神と共に歩みたいと願う限り、神はあなたの信仰を成長させてくださいます。

信仰は、神の言葉である聖書を通して神が語りかけるのを聞くことから生まれます(ロマ10:17)。日々聖書を研究し、祈りましょう。

信仰を増してくださるよう、神に求めてください(ルカ17:5)。悪霊に取りつかれた子どもを連れてイエスのもとに来た父親が、「信じます。信仰のないわたしをお助けください」〔口語訳「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」〕(マコ9:24)と涙ながらに叫んだように、私たちも自分の不信仰を認め、信仰を増してくださるよう、神に求めることができます。

信仰と疑いは共存することができます(マコ9:24)。疑問があるからといって、神から離れてはなりません。実際、恐れおののきつつ救いを達成し(フィリ〔ピリ〕2:12~16)、5人のおとめが試みたように、ほかの人から信仰を借りるのではなく(マタ25:8)、自分の信仰を「持つ」ことが大切です。

聖霊に応答し、人生において聖霊をもっと求めてください。

信仰を働かせてください。信仰は感情ではなく、信じるという決断であることを忘れないでください。暗闇の中で、神が見えないときも、神はそこにおられることを覚えましょう(Ⅱコリ5:7)。

57

ヘブ11章 (新共同訳)

11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。

11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従っ

ヘブ11章 (口語訳)

11:1 さて、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。

11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。

11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、し

て見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。

11:4 信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました。神が彼の献げ物を認められたからです。アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています。

11:5 信仰によって、エノクは死を経験しないように、天に移されました。神が彼を移されたので、見えなくなったのです。移される前に、神に喜ばれていたことが証明されていたからです。

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。

11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。

11:9 信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。

11:10 アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。

11:11 信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです。

11:12 それで、死んだも同様の一人の人から空の星のように、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです。

たがって、見えるものは現れているものから出てきたのではないことを、悟るのである。

11:4 信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。

11:5 信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について御告げを受け、恐れかしくみつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。

11:8 信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。

11:9 信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。

11:10 彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。

11:11 信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなされたかたは真実であると、信じていたからである。

11:12 このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびたしい人が生れてきたのである。

11:13 この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。

11:14 このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているのです。

11:15 もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのに良い機会もあったかもしれません。

11:16 ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいません。神は、彼らのために都を準備されていたからです。

11:17 信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。

11:18 この独り子については、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われていました。

11:19 アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です。

11:20 信仰によって、イサクは、将来のことについても、ヤコブとエサウのために祝福を祈りました。

11:21 信仰によって、ヤコブは死に臨んで、ヨセフの息子たちの一人一人のために祝福を祈り、杖の先に寄りかかって神を礼拝しました。

11:22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について指示を与えました。

11:23 信仰によって、モーセは生まれてから三か月間、両親によって隠されました。その子の美しさを見、王の命令を恐れなかったからです。

11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれること

11:13 これらの人はみな、信仰をいदैいで死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。

11:14 そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。

11:15 もしその出てきた所のことを考えていたのなら、帰る機会があったであろう。

11:16 しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。

11:17 信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。

11:18 この子については、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言われていたのであった。

11:19 彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである。

11:20 信仰によって、イサクは、きたるべきことについて、ヤコブとエサウとを祝福した。

11:21 信仰によって、ヤコブは死のまぎわに、ヨセフの子らをひとりびひとり祝福し、そしてそのつえのかしらによりかかって礼拝した。

11:22 信仰によって、ヨセフはその臨終に、イスラエルの子らの出て行くことを思い、自分の骨のことについてさしずした。

11:23 信仰によって、モーセの生れたとき、両親は、三か月のあいだ彼を隠した。それは、彼らが子供のうわしいのを見たからである。彼らはまた、王の命令をも恐れなかった。

11:24 信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを

を拒んで、
11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、

11:26 キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。

11:27 信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。

11:28 信仰によって、モーセは滅ぼす者が長子たちに手を下すことがないように、過越の食事をし、小羊の血を振りかけました。

11:29 信仰によって、人々はまるで陸地を通るように紅海を渡りました。同じように渡ろうとしたエジプト人たちは、おぼれて死にました。

11:30 信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。

11:31 信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。

11:32 これ以上、何を話そう。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。

11:33 信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、

11:34 燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。

11:35 女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。

11:36 また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。

11:37 彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の

拒み、
11:25 罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、

11:26 キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。

11:27 信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は、見えないかたを見ているようにして、忍びとおした。

11:28 信仰によって、滅ぼす者が、長子らに手を下すことのないように、彼は過越を行い血を塗った。

11:29 信仰によって、人々は紅海をかわいた土地をとおるように渡ったが、同じことを企てたエジプト人はおぼれ死んだ。

11:30 信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわったために、くずれおちた。

11:31 信仰によって、遊女ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに迎えたので、不従順な者どもと一緒に滅びることはなかった。

11:32 このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。

11:33 彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、

11:34 火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。

11:35 女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。

11:36 なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。

11:37 あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺

皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、

11:38 荒野、山、岩穴、地の割れ目をさまよひ歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。

11:39 とところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。

11:40 神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。

マタ 17:20 (新共同訳)

17:20 イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言うておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」

ロマ 10:17 (新共同訳)

10:17 実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

ルカ 17:5 (新共同訳)

17:5 使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、

マコ 9:24 (新共同訳)

9:24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」

ピリ 2:12~16 (新共同訳)

2:12 から、わたしの愛する人たちが、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。

2:13 あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

2:14 何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。

2:15 そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった

され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、

11:38 (この世は彼らの住む所ではなかった)、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよひ続けた。

11:39 さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。

11:40 神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっている、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない。

マタ 17:20 (口語訳)

17:20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。」

ロマ 10:17 (口語訳)

10:17 したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。

ルカ 17:5 (口語訳)

17:5 使徒たちは主に「わたしたちの信仰を増してください」と言った。

マコ 9:24 (口語訳)

9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。

ピリ 2:12~16 (口語訳)

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪

時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、

2:16 命の言葉をしっかり保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。

マタ 25:8 (新共同訳)

25:8 愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』

Ⅱコリ 5:7 (新共同訳)

5:7 目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。

な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

マタ 25:8 (口語訳)

25:8 ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから。』

Ⅱコリ 5:7 (口語訳)

5:7 わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。

木曜日 5月21日 イエスの信仰

この世が終わりに近づくととき、三天使のメッセージの一部は、神の民が「神の掟」[口語訳「神の戒め」]を守り、「イエスの信仰(the faith of Jesus)」を持つことを描いています。

問6 黙示録 14:12 を読んでください。「イエスの信仰」(英訳 “the faith of Jesus”)とは、何を意味しますか。

セブンスデー・アドベンチストが「信仰による義」をどのように理解してきたかを調べてみると、「イエスの信仰」と「三天使のメッセージ」に関する理解が、1890年代に教会内で非常に強調されていたことがわかります。それまで、教会は律法に非常に重点を置いており、福音をより強調する必要がありました。エレン・ホワイトはその点をこう要約しています。「神の戒めは宣べ伝えられてきたが、イエス・キリストの信仰は、同等の重要性を持つものとして、セブンスデー・アドベンチストによって宣べ伝えられてこなかった。律法と福音は密接に関連しているのである」(『セレクトッド・メッセージ』第3巻 172 ページ、英文)。

【参考】——Selected Messages, book 3, p. 172.

“The commandments of God have been proclaimed, but the faith of Jesus Christ has not been proclaimed by Seventh-day Adventists as of equal importance, the law and the gospel hand in hand.”

ヘブライ(ヘブル)11章には、強い信仰を持った敬虔な人々が挙げられています
が、「イエスの信仰」に匹敵する信仰を持った人は1人もいませんでした。

問7 マタイ 26:36~42 を読んでください。このような厳しい瞬間における「イエスの
信仰」について、この箇所はどんなことを教えてくれますか。

私たちが「イエスの信仰」を持つというのは、イエスと彼の言葉に従うことによっ
て、イエスが神に対して持つておられた信仰に倣うということだけでなく、イエスと
の積極的で生き生きとした体験を日々持つということも意味します。それは、イエ
スを日々の生活の中心に置かなければ、神との救いの関係を持ってないことを知
り、その事実に基づいて行動することです。

「イエスの信仰」を持つというのは、イエスが内住され、その結果として、彼の信
仰が私たちの心に宿ることを意味します。なぜなら、イエスは私たちの信仰の真の
基礎だからです。時として、私たちの信仰は弱くなるかもしれません。しかし、イエ
スは「ふさわしい方」[口語訳「ふさわしいかた」](黙5:9)です。ですから、イエスの信
仰を持つことができます。それは信じるすべての人に与えられる主の恵みの賜物
によって、私たちの経験に反映され、私たちに認められるのです。

【参考】英語テキストの英文

How much do you want the faith of Jesus? Humbly ask God to give it to you and claim Hebrews 11:6 as your personal prayer, saying, “Lord, without faith it’s impossible to please You. I come to You and believe that You are, and that You will reward me when I diligently seek You. I do so now.”

あなたはどれほどイエスの信仰を願い求めていますか。へりくだって神にイエスの信
仰を与えてくださるよう願い求めて、ヘブ 11:6 を個人的な祈りとして唱えましょう。
「主よ、信仰がなければあなたを喜ばせることはできません。私はあなたのもとに
来て、あなたが確かに存在されることを信じ、私が熱心にあなたを求めるとき、あなた
が私に報いてくださることを信じます。今、そうします。」

58

黙 14:12 (新共同訳)

14:12 ここに、神の掟を守り、イエスに対
する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍
耐が必要である。

【参考】Rev.14:12 (NKJV)

14:12 Here is the patience of the saints; here *are* those who keep the commandments of God
and the faith of Jesus.

マタ 26:36~42 (新共同訳)

26:36 それから、イエスは弟子たちと一
緒にゲツセマネという所に来て、「わたし
が向こうへ行って祈っている間、ここに

黙 14:12 (口語訳)

14:12 ここに、神の戒めを守り、イエスを
信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐が
ある。」

マタ 26:36~42 (口語訳)

26:36 それから、イエスは彼らと一緒に、
ゲツセマネという所へ行かれた。そして
弟子たちに言われた、「わたしが向こうへ

座っていないさい」と言われた。

26:37 ペトロおよびゼバダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。

26:38 そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」

26:39 少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」

26:40 それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。「あなたがたはこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていらなかったのか。」

26:41 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。心は燃えても、肉体は弱い。」

26:42 更に、二度目に向こうへ行行って祈られた。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように。」

黙 5:9 (新共同訳)

5:9 そして、彼らは新しい歌をうたった。「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、

ヘブ 11:6 (新共同訳)

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。

行って祈っている間、ここにすわっていないさい」。

26:37 そしてペトロとゼバダイの子ふたりとを連れて行かれたが、悲しみを催しまた悩みはじめられた。

26:38 そのとき、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていなさい」。

26:39 そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。

26:40 それから、弟子たちの所にきてごらんになると、彼らが眠っていたので、ペトロに言われた、「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかったのか。」

26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

26:42 また二度目に行行って、祈って言われた、「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように」。

黙 5:9 (口語訳)

5:9 彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

ヘブ 11:6 (口語訳)

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

金曜日

5月22日 さらなる研究

私たちは、信仰によって義とされ(赦され、神と正しい状態になります)(ロマ5:1)。また信仰によって聖なる者とされ(イエスに似た者となる力を与えられます)(使徒26:18)。

イエスを人生に招き入れるとき、私たちは信仰によって神の子となります(ヨハ 1:12)。私たちは神の子に対する信仰によって生きています(ガラ 2:20)。

「自分の無力を感じ、救い主の功績にまったく信頼する者ほど、無力に見えても、実のところ、打ち勝ち難い者はほかにない。祈りと神の御言葉の研究と神の絶えざる臨在を信じる信仰により、最も弱い人間も、生けるキリストと共に生きることができ、キリストはその手の中に彼らを支え、決して離されない」(『ミニストーリー・オブ・ヒーリング』新装版 116 ページ)。

「彼らの信仰は熱烈な祈りと断食、また心のへりくだりによって、強められねばならない。彼らは自分をむなしくして神の霊と力に満たされねばならない。信仰、すなわち神にまったくより頼み、神の御業に全的に献身するようになる信仰をもって、熱心にたゆまず神に嘆願することによってのみ、人は『もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦い』において、聖霊の助けを受けることができるのである(エペソ 6:12)」(『希望への光』 896 ページ、『各時代の希望』 第47章)。

話し合いのための質問

- ① 敵に対抗して聖霊と協力することに関して、上記の3段落目の『各時代の希望』の引用文で強調されている五つの要点は何ですか。
- ② 悪の霊に対する戦いにおいて、信仰はどんな役割を果たしますか。
- ③ あなたは今、自分の生活の中で、敵に対抗して聖霊と協力することをどのように見えていますか。
- ④ ヘブライ(ハブル)10:23 を読んでください。私たちの信仰の告白をしっかりと保つことは、なぜ大切なのですか。
- ⑤ 無力感を覚えるときこそ、イエスにもっと完全に頼る機会であるという真理を、あなたはどれほど頻繁に考えますか。

話し合いのためのヒント：神は、神との関係の基礎として私たちに信仰を与えてくださいます。信仰の創始者であり、完成者であるイエスは、私たちのために信仰の力の模範を示されました。私たちの信仰が小さくても、願いと明け渡した心をもって神のもとへ行くなれば、神は私たちの人生に奇跡を起こしてくださいませ(エレ 31:2~4、9、11、12 参照)。イエスは完璧な模範であり、イエスの信仰を持つことが、終末時代に私たちが彼の民であることを示すしるしとなります。

59

ロマ 5:1 (新共同訳)
5:1 このように、わたしたちは信仰によ

ロマ 5:1 (口語訳)
5:1 このように、わたしたちは、信仰によ

って義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、

使徒 26:18 (新共同訳)

26:18 それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである。』

ヨハ 1:12 (新共同訳)

1:12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

ガラ 2:20 (新共同訳)

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

エフェ 6:12 (新共同訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

ヘブ 10:23 (新共同訳)

10:23 約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。

エレ 31:2~12 (新共同訳)

31:2 主はこう言われる。民の中で、剣を免れた者は/荒野で恵みを受ける/イスラエルが安住の地に向かうときに。

31:3 遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し/変わることなく慈しみを注ぐ。

31:4 おとめイスラエルよ/再び、わたしはあなたを固く建てる。再び、あなたは太鼓をかかえ/樂を奏する人々と共に踊り出る。

31:5 再び、あなたは/サマリアの山々にぶどうの木を植える。植えた人が、植えたその実の初物を味わう。

31:6 見張りの者がエフライムの山に立ち

って義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

使徒 26:18 (口語訳)

26:18 それは、彼らの目を開き、彼らをやみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ、また、彼らが罪のゆるしを得、わたしを信じる信仰によって、聖別された人々に加わるためである。』

ヨハ 1:12 (口語訳)

1:12 しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

ガラ 2:20 (口語訳)

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

エペ 6:12 (口語訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

ヘブ 10:23 (口語訳)

10:23 また、約束して下さったのは忠実な方であるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け、

エレ 31:2~12 (口語訳)

31:2 主はこう言われる、「つるぎをのがれて生き残った民は、荒野で恵みを得た。イスラエルが安息を求めた時、

31:3 主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた。

31:4 イスラエルのおとめよ、再びわたしはあなたを建てる、あなたは建てられる。あなたは再び鼓をもって身を飾り、出て行って、喜び楽しむ者と共に踊る。

31:5 またあなたはぶどうの木をサマリヤの山に植える。植える者は、植えてその実を食べることができる。

31:6 見守る者がエフライムの山の上に立

呼ばわる日が来る。「立て、我らはシオンへ上ろう/我らの神、主のもとへ上ろう。」

31:7 主はこう言われる。ヤコブのために喜び歌い、喜び祝え。諸国民の頭のために叫びをあげよ。声を響かせ、賛美せよ。そして言え。「主よ、あなたの民をお救いください/イスラエルの残りの者を。」

31:8 見よ、わたしは彼らを北の国から連れ戻し/地の果てから呼び集める。その中には目の見えない人も、歩けない人も/身ごもっている女も、臨月の女も共にいる。彼らは大いなる会衆となって帰ってくる。

31:9 彼らは泣きながら帰ってくる。わたしは彼らを慰めながら導き/流れに沿って行かせる。彼らはまっすぐな道を行き、つまづくことはない。わたしはイスラエルの父となり/エフライムはわたしの長子となる。

31:10 諸国の民よ、主の言葉を聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。「イスラエルを散らした方は彼を集め/羊飼いが群れを守るように彼を守られる。」

31:11 主はヤコブを解き放ち/彼にまさって強い者の手から贖われる。

31:12 彼らは喜び歌いながらシオンの丘に来て/主の恵みに向かって流れをなして来る。彼らは穀物、酒、オリーブ油、羊、牛を受け/その魂は潤う園のようになり/再び衰えることはない。

って呼ばわる日が来る。『立って、シオンに上り、われわれの神、主に、もうでよう』と。』

31:7 主はこう仰せられる、「ヤコブのために喜んで声高く歌い、万国のかしらのために叫び声をあげよ。告げ示し、ほめたたえて言え、『主はその民イスラエルの残りの者を救われた』と。

31:8 見よ、わたしは彼らを北の国から連れ帰り、彼らを地の果から集める。彼らのうちには、盲人やあしなえ、妊婦、産婦も共にいる。彼らは大きな群れとなつて、ここに帰ってくる。

31:9 彼らは泣き悲しんで帰ってくる。わたしは慰めながら彼らを導き帰る。彼らがつまづかないように、まっすぐな道により、水の流れのそばを通らせる。それは、わたしがイスラエルの父であり、エフライムはわたしの長子だからである。

31:10 万国の民よ、あなたがたは主の言葉を聞き、これを遠い、海沿いの地に示して言いなさい、『イスラエルを散らした者がこれを集められる。牧者がその群れを守るようにこれを守られる』と。

31:11 すなわち主はヤコブをあがなひ、彼らよりも強い者の手から彼を救いだされた。

31:12 彼らは来てシオンの山で声高く歌い、主から賜わった良い物のために、穀物と酒と油および若き羊と牛のために、喜びに輝く。その魂は潤う園のようになり、彼らは重ねて憂えることがない。